

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	小松 翠 【比較社会文化学専攻 平成21年度生】	要 旨
論文題目	中国人留学生の友人関係期待と体験の否定的認識および友人形成に向けた教育的介入	<p>本研究では中国人留学生の友人関係に関する期待と体験の否定的認識及び関連要因について実証的な研究を行い、さらに、友人形成に向けた教育的介入について検証することを目的とした。第 1 章では留学生交流の現状と動向について概観し、第 2 章では異文化接触に関する諸理論と研究動向を、第 3 章では友人関係に関連する諸理論と研究動向について概説した。</p> <p>第 4 章では、中国人留学生の友人形成及び友人不形成過程についてインタビュー調査を元に質的に検討し、対象者を「積極的関心積極的行動型」「積極的関心消極的行動型」「消極的関心積極的行動型」「消極的関心消極的行動型」の 4 型に分類した。友人形成に至る促進要因として制度的支援と留学生の積極性が関連していることを示した。</p>
審査委員	(主査) 教授 加賀美 常美代	<p>第 5 章では、中国人留学生の友人関係に関する期待と体験の否定的認識及び友人関係への不満の関連について質問紙調査を実施、統計的分析を行なった。その結果、「友人関係期待」は 5 因子、「友人関係に関する体験の否定的認識」は 5 因子が抽出された。それからの関連について重回帰分析を行った結果、留学生の友人関係への期待が実現せず否定的な認識へとつながっていることが示された。</p>
	教授 宮尾 正樹	<p>第 6 章では、中国人留学生の友人関係に関する体験の否定的認識と友人関係不満の原因帰属の関連について質問紙調査を行い量的に検討した結果、友人関係不満の原因帰属として 3 因子が抽出された。重回帰分析の結果、交流不全感を感じる留学生は友人関係不満の原因を社会的外的要因に、被差別感が少なく学年の低い留学生は人的内的要因に、被差別感が強い留学生は人的外的要因に帰属させる傾向が示された。</p>
	教授 内藤 俊史	<p>第 7 章では、多文化交流合宿に参加した留学生と日本人学生の教育的介入による学びについて質的に検討した。合宿では全体から個別の交流に至る過程において両者が自発的コミュニティに参加する段階があり、この段階を経ることで関係が深まることを示した。また、教育的介入によって、留学生は相互理解、日本人学生は異文化間交流の楽しさと学びを得ていたことが示された。</p>
	教授 森山 新	<p>第 8 章では、合宿に参加した中国人留学生・日本人学生を対象に教育的介入後の交流の継続とその関連要因について検討し、参加者間の交流が継続している傾向を示した。さらに、リピーターの日本人学生が交流を促進する仲介役となっていることが示された。以上の研究を踏まえ、第 9 章では友人形成を阻害する要因と友人形成を促進する要因、留学生の友人形成に関する制度的支援として大学に求められる支援に焦点を当て、総合的な考察を行った。</p>
	准教授 西川 朋美	

